

平成30年度
事業報告書

令和元年5月24日

学校法人YSE学園
横浜システム工学院専門学校

目 次

1.	法人の概要	1
2.	理事会及び評議員会の運営状況	1
3.	受託業務	1
4.	学校の概要	2
5.	学生数の状況、就職状況	2
6.	目標達成状況	4
7.	その他	8

平成30年度事業報告書

1. 法人の概要

平成31年3月31日現在

法人名	学校法人YSE学園
所在地	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128番4
理事長	杉山 勝巳
理事	足立原 泰、酒井 達男、仲久保 正人、中村 伸行
監事	林 宇一郎、八木 一郎
評議員	杉山 勝巳、青木 聡、秋山 恵美子、浅川 佑 酒井 達男、佐藤 登志徳、清水 洋平、富永 英世 仲久保 正人、中村 照栄、馬場 健一、把野 恭久

2. 理事会及び評議員会の運営状況

開催年月日	名称	議題
平成30年5月31日	理事会 評議員会	第1号議案 平成29年度事業報告書承認の件 第2号議案 平成29年度決算報告書承認の件 決算報告、監査報告 第3号議案 評議員欠員補充の件
平成30年9月27日	理事会 評議員会	第1号議案 寄付行為修正について 第2号議案 学則変更について
平成30年12月19日	理事会 評議員会	第1号議案 平成31年度生用カリキュラムの改訂について 第2号議案 学則変更について
平成31年3月20日	理事会 評議員会	第1号議案 平成30年度収支補正予算(案)について 第2号議案 平成31年度事業計画(案)について 第3号議案 平成31年度収支予算(案)について

3. 受託業務

公共職業訓練 Java プログラマ・基本情報対策科4か月コース11月生

公共職業訓練 Excelによるデータ分析科eラーニング2か月コース1月生

公共職業訓練 ロボット・IoTソフト科 平成30年度生

教室貸出 ベネッセベースコム GTEC CBT (スコア型4技能検定) 試験会場

11/10 (準備)・11 (試験)、 3/24 (準備)・25 (試験)

4. 学校の概要

平成31年3月31日現在

学校名	横浜システム工学院専門学校
所在地	横浜市旭区東希望が丘 128 番 4
学院長	杉山 勝巳
総務室室長代理	横山 由美子
教育広報推進室室長	馬場 健一
教務事務室室長	佐藤 登志徳
教育指導室室長	中村 照栄
先進 I T 教育推進室室長	青木 聡
就職支援室室長	杷野 恭久
教育設備管理室室長	富永 英世

5. 学生数の状況、就職状況

(1) 2年次進級者数

平成31年3月31日現在

学 科	入学 定員	入学者	進級者	内訳_1		内訳_2	
				日本人	留学生	男子	女子
IT・ゲームソフト科	40	32	19	4	15	15	4
ロボット・IoTソフト科	20	7	13	11	2	13	0
コミック・CGアニメ映像科	20	11	6	3	3	5	1
グローバルITビジネス科	160	190	157	0	157	117	40
合 計	240	240	195	18	177	150	45

(2) 新入生予定数

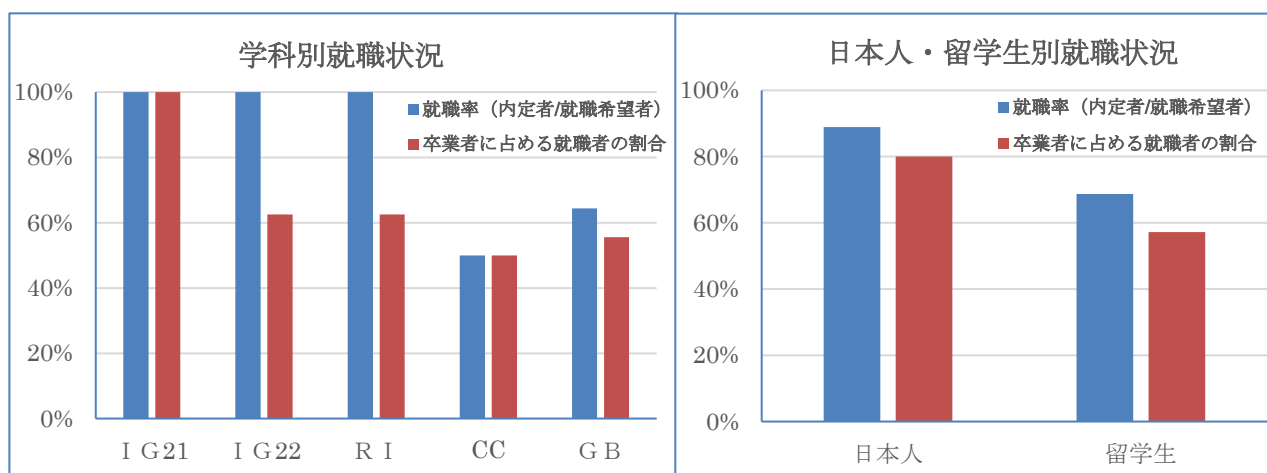
平成31年3月31日現在

学 科	入学 定員	入学者	内訳_1		内訳_2	
			日本人	留学生	男子	女子
IT・ゲームソフト科	40	58	26	32	53	5
ロボット・IoTソフト科	20	0	0	0	0	0
AIサービス活用科	20	7	5	2	6	1
グローバルITビジネス科	160	190	1	189	121	69
合 計	240	255	32	223	180	75

(3) 卒業生の課程別進路状況

平成31年3月31日現在

		工業専門課程					商業実務 専門課程	合計
		IG21	IG22	RI	CC	小計	GB	
	卒業生数	13	16	8	4	41	117	158
	卒業生に占める留学生の割合	8%	100%	38%	25%	51%	100%	87%
就職	就職希望者	13	10	5	4	32	101	133
	内定者	13	10	5	2	30	65	95
	就職率(内定者/就職希望者)	100%	100%	100%	50%	94%	64%	71%
	卒業者に占める就職者の割合	100%	63%	63%	50%	73%	56%	60%
進学		0	3	1	0	4	3	7
未内定・未希望		0	3	2	2	7	48	55
帰国		0	0	0	0	0	1	1



(4) ITライセンス科(通信制)在籍数

平成31年3月31日現在

	2019.4 入学予定		2018.10 入学		2018.4 入学		計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
在籍数	3	3	1	0	5	1	13
計	6		1		6		

6. 目標達成状況

(1) 経営目標

- ① 地域社会の情報化並びにグローバルな情報化に貢献できる情報化人材の育成
⇒情報化人材ニーズに応えられる学科を設け、神情協会員企業をはじめ地元企業への職業実践的な情報化人材の輩出に努めてきた。
- ② 文部科学大臣による職業実践専門課程認定校に相応しい情報化人材の育成
⇒職業実践的カリキュラムの下で、産学連携による授業やコラボレーションをとり入れて、職業実践的教育を展開してきた。
⇒自己評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を定期的で開催し、IT業界団体やIT企業の声を反映させてきた。
- ③ 情報公開に耐えられる経営の健全性保証及び教育の質保証
⇒内部監査委員会により、業務運営の健全性や教育の質向上状況をレビューしてきた。
⇒ISO29990による第三者評価認証校として、前回の審査で指摘されたコメントに対応した上で、2019年1月7日、JAMOTE認証サービス(株)によるISO29990認証の定期適合性審査を受け、適合と認証された。
- ④ 教育満足度の向上に向けた教職員の能力開発
⇒教育力・担任力の向上に向け、各教員の希望する内外の研修機会を、夏期休業期間を中心に活用してきた。
- ⑤ ABC戦略の推進 (All Better Change)
⇒経営の質向上を目指し積極的に業務改善を進めてきた。

(2) 教育目標

- ① アウトカムの向上
⇒アウトカムの向上をめざし、職業実践的な専門教育を行ってきた。
- ② 実学と資格取得の両立
⇒実学教育と資格取得教育の両立ができるようにカリキュラムやシラバスの見直しを行い、専門学校生の平均合格率を上回る合格率を目指し指導に当たってきた。
- ③ 自信・主体性を育む教育
⇒さまざまな教育方法をとり入れ、学生のやる気向上に努め、自信・主体性を育んできた。
- ④ コミュニケーション力・プレゼンテーション力の向上につながる教育
⇒さまざまな機会をとらえ、コミュニケーション力やプレゼンテーション力の向上に努めてきた。
- ⑤ 各クラスのドロップ率は10%以内に留める
⇒授業の工夫、担任指導、補習、追試等を親身に行ってきた。
⇒授業態度や出席状況の変化の早期把握、欠席者のフォロー等に努めてきた。
⇒アルバイト管理を定期的に行ってきた。

⑥ 安心して過ごせる学園生活

下記対策を講じ、学生及び教職員が安心して学園生活を送れるように努めている。

- ⇒学生・生徒災害傷害保険加入（一般財団法人職業教育・キャリア教育財団）
- ⇒留学生補償保険加入（一般財団法人職業教育・キャリア教育財団）
- ⇒学校賠償責任保険加入（一般財団法人職業教育・キャリア教育財団）
- ⇒個人情報漏えい保険加入（一般財団法人職業教育・キャリア教育財団）

（3）教育方法目標

① 4学期制と5学期制の両立による教育

⇒実学指向の教育の特徴の一つとして、工業専門課程は4学期制、商業実務専門課程は5学期制で運用している。

② シラバス等の充実

⇒授業の成果に繋がるシラバスの全面的な見直しを行い、各期毎の到達目標の明確化と達成状況のフィードバックをしやすいとした。

③ 授業の活性化

⇒グループに分かれ、問題解決力やチーム力、コミュニケーション力を伸ばせるアクティブラーニングを取り入れた授業を増やしている。

④ きめ細かなクラス運営

⇒学生別カルテを作成し、クラス運営に反映させている。

⑤ 身につけた専門力・表現力を活かすコンテストの活用

コンテストにチャレンジし、他校の学生と競い合ったり、入賞体験などをすることにより、自信・主体性を育んできた。

⇒神情協/学生ITコンテスト2018 最終選考会

グローバルITビジネス科 1チーム

⇒アフレルスプリングカップ2019東京大会（2019/3/26）

ARCエキスパート部門 準優勝、第3位入賞 / ロボット・IoTソフト科

⑥ 産学連携授業や産学コラボレーション等の活用による実践的教育

職業実践的な専門教育を行い、Can Do人材の育成に取り組んできた。

⇒産学連携授業 / IT・ゲームソフト科

⇒職業観を養うための校外学習 / IT・ゲームソフト科、ロボット・IoTソフト科

⇒コミュニケーションロボットPepperアプリの開発 / ロボット・IoTソフト科

⇒産学官コラボレーションによる教育ビデオの作成 / コミック・CGアニメ映像科

⑦ 先進的な企業の見学

職業観の育成、先進的企業のIT化・自動化の現状等を見学することにより、現場理解を深めると共に、留学生については、日本理解深耕の一助として活用してきた。

⇒味の素川崎工場

⑧ プレゼンテーション力を磨ける機会の設定

⇒学科間交流発表会、卒業制作発表会、YSEフェスタ、留学生スピーチコンテスト等プレゼンテーション力を磨ける機会を設けてきた。

⑨ 修学旅行

⇒団体行動経験の場として、さらには、見聞を広める機会として実施した。先生と学生

の交流や仲間同士の親睦を深める場としても有意義であった。

工業専門課程 飛騨高山・白川郷、トヨタ産業技術記念館（11/20～11/22、2泊3日）

商業実務専門課程 ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（2/18夜～2/20、2泊3日、車中1泊含）

（４）学生募集目標

① 意欲的な新入生の確保に努めた。

② 工業専門課程各学科の定員充足率の向上

⇒高校間の大学進学競争の激化と少子化による大学全入時代が重なっていることも影響して、高校からの入学者確保に苦戦している。

募集活動の範囲を神奈川県内に限定せず、静岡や長野等の一部地域の高校にも広げている。

公共職業訓練生が12名入学したことにより日本人学生は増えたが、それでも、依然として低迷状態を脱皮できていない。広報方法を抜本的に見直し、より一層の増加を目指してゆく。

一方、本校のホームページから募集しているITライセンス科（通信制）への入学者は6名に過ぎない。入学定員を充足できるように、広報方法を抜本的に見直し、より一層の増加を目指してゆく。

③ 体験入学等参加者数の確保及び入学率の向上

⇒参加者の期待に応えられる体験入学になるように努めてきたが、参加者数、出願率を見る限り、更なる工夫を続けてゆく。

④ AOエントリー入学

⑤ 季刊誌「Y S e y e」の発行

⇒Y S e y eの取材・発行・配布等を通して、高校サイドの本校に対する関心・理解の深耕に努めてきた。

⑥ 模擬授業の受け入れ

実学指向の専門教育を体験してもらう機会として、積極的に受け入れてきた。

（５）就職支援目標

① キャリア支援に習熟した教員の配置により就職支援体制の充実を図ってきた。

② クラス担任支援や就職情報のタイムリーな提供により、就職支援の円滑化を図った。

③ クラス担任と就職支援室の連携により就職率の向上に努めてきた。

④ 校内会社説明会、校内会社面接会等を随時設けてきた。

- ⑤ 次年度に向けては、留学生の求人先を一社でも多く開拓してゆく。
- ⑥ 特定活動ビザ申請手続き支援の円滑化に努めてゆく。

(6) 教務事務目標

① 学費等の回収率の向上

⇒学生の増加と共に、学費分納者、学費延納者、学費未納者が増えたため、回収負担が大きくなっているが、担任指導に加え教務事務室による個別面談を行ってきたことにより、回収率は改善してきた。

② ビザ更新事務の円滑化

⇒ビザ更新は時期的に集中する傾向にあるが、計画的な指導と、新たに用意した「ビザ更新手引き」の活用により、円滑に行えるようになりつつある。

③ 学則の改定

賞罰にかかわる事項等を改定した。
⇒留学生の休学は認めないことにした。
⇒留学生を対象に皆勤賞を設けた。
⇒自主退学、退学処分、除籍の定義を明確にし、大幅に改定した。

(7) 施設の維持・保全・監視目標

安全性を維持し、安心して学園ライフを送れるように施設の維持・保全・監視に努めてきた。

① B号館補修工事

② A号館・B号館の定期点検

⇒電気設備点検、エアコン点検・フィルター清掃、消防設備点検を行った。

③ 安全対策、盗難予防

⇒防犯カメラの設置により、校舎出入口の安全対策、盗難予防を行っている。
⇒セコムとの契約を継続し、警備保障を行っている。
⇒損害保険加入
⇒非常時災害や自然災害に備え、クラウドデータ保管サービスを利用して、重要データの外部保管を行っている。

(8) 同窓会の活性化目標

① 同窓会総会

⇒平成30年5月27日（日）に実施。

② 出席予定者が減少傾向にある。同窓会事務局のあり方を見直さなければならない。

7. その他

- ① 高校生を対象に、仕事理解及び本校を知ってもらう場として、神専各主催の夏季講座「仕事のまなび場」に協力。
 - ⇒人工知能を使った画像認識体験
 - ⇒センサーとプログラムでなんでもロボットにできるIoTソフトウェア制作体験
 - ⇒Unityを使った3DCGゲーム制作体験
 - ⇒Webサイト制作ツール「WIX」を利用したショップサイト制作体験

- ② 地元貢献の一環として、地元小学生対象の「プログラミング講座」を実施した。
 - ⇒6ヶ月コース/4月開講 ゲームコース、ロボットコース
 - ⇒6ヶ月コース/10月開講 ゲームコース、ロボットコース